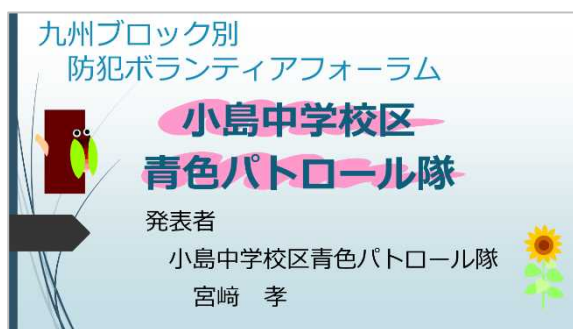


小島中学校区青色パトロール隊（長崎県）

皆さん、こんにちは。最初の発表ということで、とても緊張していますが、20分ほどお時間をいただければと思います。九州ブロック防犯ボランティアフォーラム、小島中学校区青色パトロール隊です。



小島中学校区には、小学校が2つあります。小島小学校、愛宕小学校です。そして小島中学校があり、この3つの学校から成り立っております。これは愛宕小学校の、子どもたちの集団下校のときのパトロールの様子です。



長崎県長崎市は、この位置に存在します。ちょうど中心部、長崎の繁華街、思案橋、丸山。そこから上の方を見ていただくと、私たちの校区、小島中学校区が見えます。小島中学校区は、結構広い範囲であります。



これが、すり鉢状になっている長崎の港です。この港の上のほう、こちらが長崎県庁になります。そして水辺の森がありまして、そこから見る、この一帯が小島中学校区になります。ここをパトロールしています。

私が中学校の役員をしている頃には、約2万人

が住んでいる地域と言われ、長崎では松浦市と同等ぐらいの人口がいるときがありました。

小島中学校区 青色パトロール隊の概要

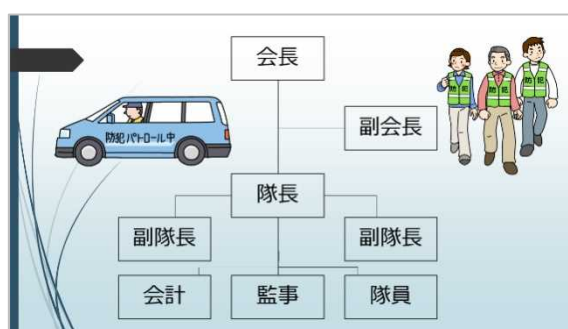
- 平成19年12月に結成
- 平成21年「地域安全安心ステーション」に指定
 - ・ 安全安心パトロールの出発拠点
 - ・ 地域安全情報の集約・発信拠点
 - ・ 安全安心のための自主的活動の参加拡大拠点

小島中学校区青色パトロール隊は、平成19年12月に結成されました。結成されたときは長崎市立小島中学校において設立総会を行い、その後、盛大なる出発式を執り行って、活動を始めました。

「設立までの道のりは、決して楽でも単純でもなかった。青パトという、まだ全くと言えるほど知られていなかった防犯活動について、まず地域の皆さんに伝え、説明することから始めなければならないという、極めて困難で屈辱さえ感じながらの、忍耐と地域愛の塊、奉仕の心と強い信念に支えられて、初めて実現に至った。これは、我々発起人メンバーの団結力・行動力の賜物であったと自負しています」。これは、10年経って記念紙を発行したときの、佐藤前会長の言葉です。記念紙の中に、このような言葉が入っています。立ち上げてすぐに潰れない、いつまでも長く活動できる団体でありたいという思いから、私も一緒に地域連合自治会など各自治会を回り、助成金のお願いをさせてもらいました。青パトの活動がなぜ必要なのかと説明しながら、社会福祉協議会の支部も1つ1つ回りました。小島中学校区には4つの連合と、500世帯ぐらいの自治会があります。そうしたところもくまなく回って、説明をさせていただきました。

「安全安心パトロールの出発拠点」と資料にも書いていますが、平日は小島中学校を拠点として活動しています。会議室を1つお借りして、パトロールする隊員たちがそこに集まって、協議をして出発します。夜は地域にある田上交番に集まって、活動しております。

組織としては、会長、副会長が事務方、隊長、副隊長がパトロール実行部隊という形で、活動させていただいております。



活動内容

① 青パト車両による 定期的なパトロール



昼間パトロール


週3回(15時~16時)



夜間パトロール

週2回(19時30分~20時30分)

青パト車両による定期的なパトロールとして、昼間のパトロールは週3回、15時から16時に行っております。夜のパトロールは週2回、田上交番に集まってから、パトロールを行っております。この「週2回」というのは、今年度からの取組です。今年度から長崎県警補導員の方々が市の補導員さんとタイアップして、夜に1日増やして、回っていただくようになりました。昼間のパトロールは、夏休み期間は16時から17時、普通のときは15時から16時で行っております。



② 安全・安心まちづくりのための啓発活動

- ・ 広報紙「青パト通信」の配布
- ・ 四半期に1回の定例会
- ・ 市民集会などの場における防犯意識の向上及び青パト活動への協力依頼

広報紙「青パト通信」は、前会長の佐藤さんが作り、地域に配っております。長崎警察署や関係団体にも配っております。いろいろな取組、隊員の紹介などを書いております。

四半期に1回の定例会。以前は2カ月に1回でしたが、現在は3カ月に1回、定例会を行っております。

次に、市民集会などの場における防犯意識の向上及び青パト活動への協力依頼について。長崎市では、以前、痛ましい事件がありました。長崎市長選挙のときに暴力団による殺害事件があり、それを機に、「いのちを守る」長崎市民集会が行われております。今年も6月5日土曜日に、この集会に参加させていただきました。そこで青パト隊の紹介をさせていただき、パレードにも参加いたしました。そうした連携をさせていただいております。



③ 行政機関・関係諸団体との連携

- ・ 子どもを守るネットワークや学校、警察と連携
- ・ 管轄の警察署に依頼しての防犯講話の実施

駿ちゃん事件を、皆さんはご存知ですか。長崎で、中学生が3歳の男の子の命を奪うという大きな事件が30年ぐらい前に起きました。その後立ち上がったのが、地域で子どもを守るネットワークです。これが、小学校区ごとに立ち上がりました。そこで行われているのが、100人パトロールです。駿ちゃん事件が7月1日でしたので、そ

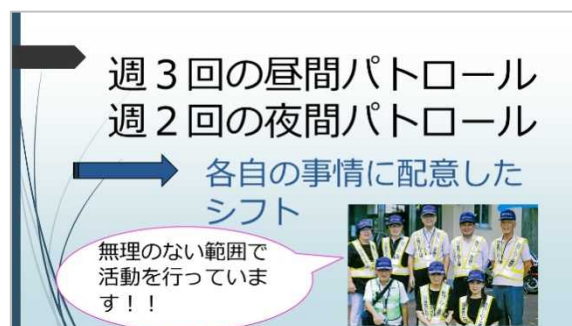
の前後、長崎市では「長崎っ子の心を見つめる教育週間」を行っております。このときに100人パトロールを行っており、そこに私たちも連携させていただいております。

また、長崎警察署にはいつもお世話になっているのですが、隊員の意識向上のため、年に1回、講習会をしていただいております。そして「決して無理をしないように」「行き過ぎないように」などのアドバイスをいただきながら、パトロールを進めております。

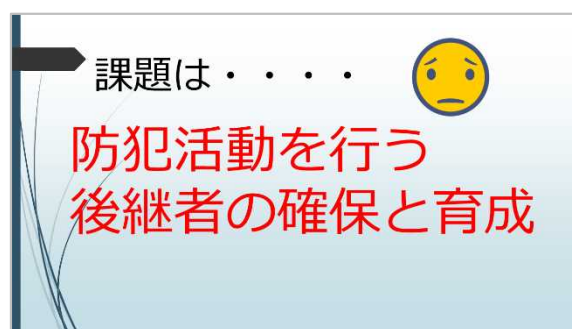
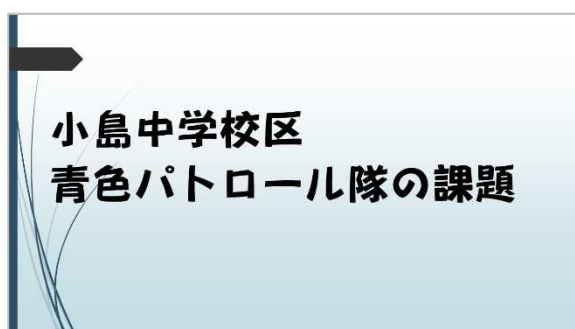
昨日、福岡県で、小学生が亡くなるという痛ましい事故がありました。7月10日、九州北部大雨によって水かさが上がっているときに、私もパトロールをしておりました。そのときは長崎にも結構な大雨が降りました。先ほど地形を見ていただいた通り、すり鉢状になっていますので、山のほうから水が、どんどん下へ下がっていきます。今回、私がパトロール中に見つけたのは、小学生3人でした。ゴミステーションの横に暗渠があるのですが、その暗渠の中に下りて行って、遊んでいるのです。たまたま、ゴミステーションのネットから顔が見えたものですから驚きました。どこから入ったのだろうと思ったら、フェンスがないところがあり、そこから入って行った

のです。「水かさが上がったら危険だから出なさい」とお話しして、強く叱るまではしなかったのですが、注意をしました。そこから下を見ると、大きな苔が生えたような石場が3カ所ぐらいあって、その下が用水路になっています。団地の造成された川で、幅が1.5mぐらい、高さが3mぐらい。これはどうしたらよいだろうかと、パトロールを終えたあとに田上交番に行って、報告をさせてもらいました。

そのあとに、私と一緒に活動している方が長崎市の補導委員さんをしていらっしゃるのですが、こういうときはどうしたらよいかと相談しました。すると、「学校に連絡してください。子どもたちがこうしたところで遊んでいたと、報告してあげてください」。そこで、学校に報告いたしました。すると、教頭先生と生徒指導の先生が、すぐに現場を見に行ったそうで、私にもすぐに、折り返し連絡がありました。「あそこは大変危険なところだから、注意をします」ということで、翌日の7月11日に全体集会をしたそうです。そして、子どもたちだけ川や海へ行ってはいけないとも、学校で話されたとのことでした。やはり、滑って頭を打ったら、そのまま流れて行ってしまわないかという危険性があったので、そのような報告をさせていただきました。



これは夏の服装です。こうした帽子をかぶって、パトロールさせていただいております。



先ほどのお話にもあったように、課題は後継者の確保と育成です。私たちが平成19年に活動を始めて、16年目になります。当時の隊長は、今、88歳です。88歳で、去年まで隊長として頑張ってくださいました。県の補導員さんを32年された方です。やはり高齢化で、なかなか若い方が入らないということで、私が2年前にバトンをいただいたのですが、そのときに、前会長に相談して予算をつけてもらいました。

課題の解決に向けた 取組方策

隊員募集ポスター の作成、掲示



この「ボランティア隊員募集」ポスターを、当初は100枚作ってもらったつもりでした。しかし、「200枚作ったらいくらになりますか」と聞いたら、「1000円上がるだけです」と言われたので、200枚作らせてもらいました。200枚作って、110カ所ある地域の掲示板に、全部、貼っていただきました。しかし、貼りっぱなしでは格好が悪いので、3カ月ぐらいで剥がすことになって、隊員募集を初めてさせていただきました。そして、嬉しいことに、3名の方から電話をいただきました。「このポスターを見ました、私もやりたいのですが」という地域の方からの声です。さらに、一番嬉しかったのは、地元の小学校、小島の中学校を卒業した、女子高校生からの連絡です。「私たちも活動したい、お手伝いをしたい。どうしたらいいですか」という電話をいただいて、とてもありがたかったです。

これを踏まえて、今年は2月22日に長崎警察署と連携して、新規隊員講習会を開かせていただきました。そして、6名の方が隊員となりました。そして、1台の車が増えました。

これは、地元の女子短期大学の学生との、下校時の見守り活動です。このときにも、青色パトロール隊がここに来て、くるくと回って、「地域の子どもたちを見回っていますよ」という取組を行っております。

車両は、スタート時が4台、ピーク時は8台になりましたが、また4台に減りました。そして、今回1台増えて、現在、5台の車で活動させていただいております。

今後、私たちが考えていることは、後継者育成です。PTAの役員さんだったり、ネットワークの代表の方だったり、そうした方々を巻き込んでやっていきたいと思っています。それから、地域でいろいろな役をやっていらっしゃる方にも、声をかけさせていただきたいと思います。

ポスターについては、今回初めて作り、自治会長さんはじめ、いろいろな方々に協力していただいて掲示板に貼っていただきました。これが功を奏して6名の方が隊員となり、そして今また、5名の方からの応募がありました。9月15日には、また長崎警察署にお願いし、新規隊員募集の講習会をしていただくことになっております。ご清聴、ありがとうございました。

大学と協力した児童の見守り活動の実施



ご清聴ありがとう
ございました。



宮崎さんには穏やかな、ゆったりとした語り口でご説明いただき、よく分かりました。

防犯ボランティア活動を、これまで15年以上にもわたって、組織的に継続されていることに対して、まずは敬意を表したいと思います。それから冒頭、青パトに対して、子どもたちが手を振っている写真がありました。それを拝見して、この活動が小島地区にしっかりと根付いていることがよく分かりました。

活動につきましては、通学路の見守りと、夜間の青色パトロールが大きな柱だということでした。昼間のパトロールにつきましては、資料によりますと月、火、木の、午後3時から午後4時とのことでした。子どもたちが被害に遭いやすい「声かけ」「つきまとい」では、それが発生しやすい月や曜日があるようです。例えば福岡県警では、小学生以下を対象とした前兆事案の分析結果を毎年発表していて、我々もホームページを閲覧できます。福岡での声かけ事案は月別に見ると5月が多く、曜日については水曜日と木曜日に多いことが示されています。ですから、これは可能かどうか分かりませんが、長崎県警の方もいらっしゃっているので、長崎県、あるいは長崎市の子どもが被害者となる犯罪の発生状況の分析結果を県警からいただいた上で、事案発生が多い曜日にパトロールを行う。あるいは、発生が多い月は、いつもより時間を長めにしてパトロールする。こうしたことをすれば、限られた人員で、より効果的なパトロールにつながるのではないかと思います。

それから、これはどこの団体にも共通する課題だと思いますが、後継者確保については、チラシをお配りすることで効果があったとのことでした。私もさまざまな媒体での情報発信、それから、他の団体での交流が解決の鍵になると思っております。今回刷られたチラシを地域の住宅にポスティングするのもよいと思います。あるいは小中学校にお願いして、新入生への配布資料に募集チラシを入れてもらい、保護者にご協力をお願いする方法もあると思います。

また、校区内にある長崎女子短期大学と協力しての見守り活動は、大変良い取組だと思います。その短大にあるかどうか分かりませんが、大学にはボランティアサークルがあるところが多く、そのような団体に協力をお願いするのもよいと思います。また、地域のために役立ちたいと思う会もあると思います。例えば「おやじの会」の皆さんに協力をお願いする方法もありますので、参考になればと思います。簡単ですが、以上となります。

防犯サークルオリオンズ（福岡県）

こんにちは。私たちは福岡県立大学の防犯サークルオリオンズと申します。この度は九州ブロックボランティアフォーラムに参加させていただき、ありがとうございます。この発表を通して、私たちが得た学びを報告させていただきます。



福岡県立大学 防犯サークルオリオンズ

防犯サークルオリオンズ

- ・メンバー・・・県立大(田川市)の学生
23人(令和4年度)
- ・犯罪から身を守るための啓発活動など
を行う

まず、防犯サークルオリオンズについて紹介します。現在、防犯サークルオリオンズは、福岡県田川市にある福岡県立大学の学生 23 名で活動しています。

福岡県立大学は、看護学部と人間社会学部の、2つの学部と大学院からなる公立大学です。小規模な大学ではありますが、地域に密着した活動が盛んで、学習支援や福祉に関するボランティア活動に参加する学生が多いことが特徴です。この大学で、私たち防犯サークルは、主に犯罪から身を守るための啓発活動を行っています。

団体設立の経緯

- ・2018年に警察庁により実施された、
犯罪防止に関するワークショップに
参加した学生が中心となって設立。

こちらは団体設立の経緯です。

今年で結成 5 年を迎える防犯サークルオリオンズは、2018 年に警察庁により実施された、犯罪防止に関するワークショップに参加した学生が中心となって設立されました。結成当初、不登校の児童・生徒の学習支援など、子どもに関わるボランティア活動をしていた学生が多く、女性と子ども

の安全をテーマに、啓発活動に取り組み始めました。

現在のサークル構成メンバーは看護学部の学生が多く、特に、養護教諭を目指している学生が多く所属しています。ちなみに私は、人間社会学部に所属しています。私自身、将来は警察官を志望していること、また、他にも子どもと関わるボランティア活動に尽力していることから、こ

のサークルは自分にとって新たな視点を取り入れることができると考え、1年生のときから所属しています。

活動の目的

- ながら防犯の呼びかけ
- 防犯意識を日常の一部に
- ・田川署や県警本部との連携

地域とのかかわり

次に、活動の目的について紹介します。

オリオンズの目的は、学生など若い世代が安心・安全に生活するために、主体的な取組を警察等関係機関と連携して行うことです。主体的な取組とは、私たちが力を入れている、防犯意識を日常の一部にする「ながら防犯」という防犯活動です。この、ながら防犯を皆さんに呼びかけるために、

田川署の方々や福岡県警本部の方々との連携を通じ、地域との関わりを大切に活動しています。

さらに、「みんなで一緒に防犯」とあるように、若者同士の交流の中で上がった防犯情報や、最近の話題を共有するなどして、子どもたちや地域の人に呼びかけを行ったり、私たち自身も日頃から防犯を意識して生活したりしています。

近頃、「最近の若者はニュースを見ない」「最近の若者は新聞を読まない」といった「最近の若者は」的伝説もありますが、意外と最近の若者は、SNSを通して新しい話題や情報をキャッチしているものです。若者が受け取る多くの情報には、最近の犯罪やニュースなども含まれていることが多々あります。もちろん、その際には、情報の適切な取捨選択が重要となりますが、「みんなで一緒に防犯」という言葉には、そのような教養を身につけていこうとする姿勢も含まれています。

田川地域は学生などの若い世代の人が多く過ごしている地域となっています。そのため、みんなが安心・安全に生活するために私たち自身が犯罪から身を守る主体となれるよう、防犯活動や呼びかけを行っています。

私たちは若者の視点を取り入れながら、時代とともに変わり続ける犯罪行為や、新しい防犯対策について考えています。例えば、若者の間で流行しているものを防犯に役立てたり、学生と警察の方々が話し合いを行い、活動案を具体化したりしています。

過去には、犯罪から身を守るための啓発メッセージを込めたドラマ仕立ての動画の作成や、標語グッズの作成が行われました。動画は2020年、オリオンズのメンバーらが出演して、『夜道の安全』というタイトルで、夜道を歩く際の注意点を1分間にまとめたものが作成されました。福岡県警の「福岡ムービーアワード2020」で最優秀賞に選ばれ、福岡県警のホームページから視聴することができます。

活動の目的

- みんなで一緒に防犯
- 若者同士の交流の中で、学生から子どもたちや地域の人に呼びかけ

若者の視点を取り入れる

- 若者の間で流行しているものを防犯に役立てる
- 学生と警察が話し合いを行い、防犯呼びかけ活動案を具体化

同年に、田川遊技防犯組合の寄付で、3種類のエコバッグを600個作り、地元の飲食店などで無料配布しました。エコバッグにはオリジナルの黒猫のマスコットを描き、性犯罪やサイバー犯罪、特殊詐欺への注意を呼びかける標語が添えられました。私たちは、これまでにオリオンズの先輩方がやってきたような活動を参考に、今後の防犯活動に向き合っていきたいと考えています。

こちらは学生が考案し、警察の方々と協力しながら制作した防犯ステッカーです。これは、最近の若者の流行で、透明のスマホケースにステッカーを貼ったり挟んだりしてデコレーションしているのをきっかけに、考案されました。ステッカーには、おしゃれなデザインで防犯メッセージが書かれており、SNSで流行した言葉などが取り入れられています。例えば、この左上にある紫の文字の「シカカタン」というのは、「〇〇しか勝たん」、つまり、「〇〇が最高だ、1番だ」という意味の、推し活用語です。このステッカーを例にすると、「シカカタン」と、左上の「自己防衛」という文字を組み合わせると、「自己防衛しか勝たん」というように使うことができます。このステッカーは実際に、福岡県立大学の学生達に配布されました。



活動の実績

- 博多駅にて性犯罪防止キャンペーンでの啓発活動
- 被害者層と同年代の学生ボランティアの啓発
- メッセージ内容が伝わりやすいのでは

次に、活動の実績について紹介します。

2022年夏、博多駅にて、「打ち水イベント with 性犯罪根絶キャンペーン」という性犯罪防止キャンペーンで啓発活動を行いました。被害者層と同年代の学生ボランティアが、性犯罪防止についての啓発を行うことで、メッセージ内容がより伝わりやすいのではないかと思います。当日は、他大学の防犯サークルの皆さんと、性犯罪防止を訴える内容のチラシとうちわ、ポケットティッシュを同封したものを、道行く人に配布しました。

また、私たちオリオンズは打ち水イベントに参加し、このあと紹介する防犯アプリ「みまもっち」の紹介を、博多駅前アナウンスしました。

ここで、福岡県警察防犯アプリ「みまもっち」の紹介です。この「みまもっち」というアプリは防犯ブザー機能や、事案・事件情報、さらにゲーム感覚で楽しく防犯を学ぶことができる、ミニゲームも搭載されています。私も、このアプリをインストールしていますが、新着情報が更新されるたびに上に表示されるので、とても役に立っています。

活動の実績

- 福岡県警察防犯アプリ「みまもっち」の紹介

防犯ブザー機能

事案・事件情報

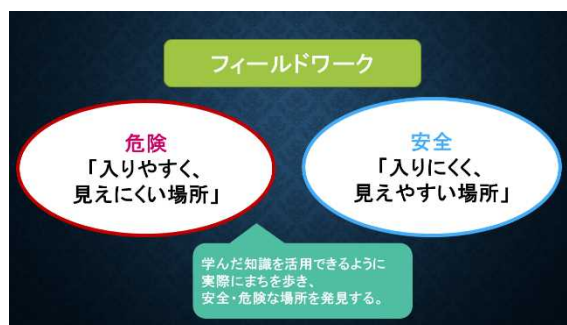
<https://play.google.com/store/games>

次に、田川市伊田地区での地域安全マップづくりについて紹介します。

活動内容としては、田川警察署の方々、少年補導委員の方々、そして福岡県立大学生が連携して、伊田小学校の3年生を対象に、子どもたちが犯罪に遭わないための力をつけるため、危険な場所や安全な場所を発見し、その理由を論理的に説明できるようになることを目的に、地域の安全マップ作りに取り組みました。



活動内容



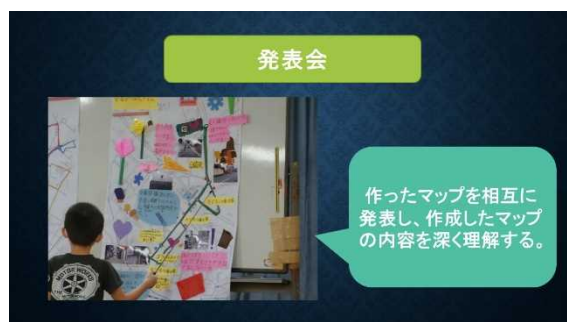
まず、危険な場所は入りやすく見えにくい場所であり、安全な場所は入りにくく見えやすい場所であることを、パワーポイントで、写真やイラストを用いて子どもたちに分かりやすく説明したり、クイズ形式にしたりすることで興味を引きました。

こうして安全マップ作りに必要な知識を得た上でフィールドワークを行い、子どもたちが暮らす地域の安全・危険な場所の発見と、記録ができました。

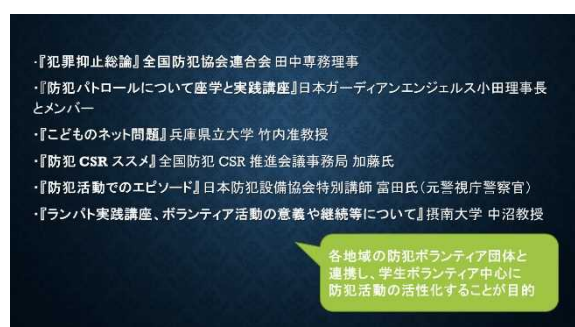
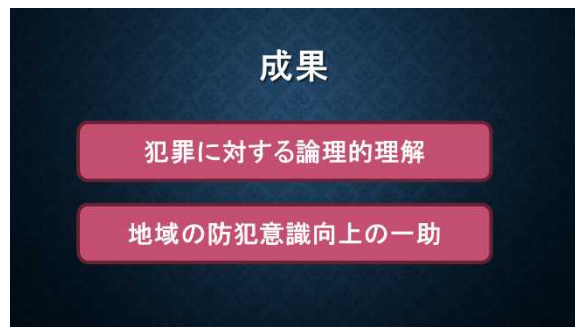
そして、子どもたちが集めた情報を学校で、チームのみんなと一緒に共有・整理し、発表会に向けての準備を行いつつ、フィールドワークでの情報や知識の理解を定着するようにしました。

発表時に用いた模造紙には伊田地区の地図があり、子どもたちが安全な場所と危険な場所を、なぜその場所を選んだのかの理由とともに書き込みました。また、折り紙を貼ったり、絵を書き込んだりして、楽しみながら活動を進めることができました。

最後に発表会を開催し、各チームでの学びの交換を行うとともに、作成したマップの内容をより深く理解してもらいました。また、この発表会には地域の方々にも参加していただきました。子どもたちの発表から、地域の犯罪の啓発につながったと思います。



この活動の成果としては、子どもたちの、犯罪に対する論理的理解が深まったことと、地域の防犯意識向上の一助につながったことと考えます。犯罪や安全についての知識を十分に教えた上でフィールドワークを行い、フィールドワークで得た情報を自らの力で整理することで、子どもたちが犯罪や安全について論理的に理解し、子どもたちの防犯に対する力がついたのではないかと考えます。また、地域の方々に発表会に参加していただいたり、作成した地域安全マップを田川伊田商店街に掲示することができたりしたことから、子どもたちだけでなく、地域の防犯意識の向上につながる一助になったと考えました。



次に、次世代学生防犯ボランティアサミットについてです。東京で開催された、次世代学生防犯ボランティアリーダー研修会に、私たち福岡県立大学生が参加しました。

こちらが、参加した研修会の内容です。この研修会では、各地域の防犯ボランティア団体と連携し、学生ボランティアを中心に防犯活動を活性化することを目的に、専門家の方々による講義や実践講座を受け、学生ボランティア同士で防犯パトロールや子どものネット問題、全国での学生防犯ボランティアによる取組等についての報告と情報共有を行いました。それぞれの講義や実践講座を通して、多くの学びを得ることができました。

研修を通しての感想として、防犯に取り組む姿を見せることや、その地域の人々に関心の目を向けることによって、自然と犯罪をなくすことができ、一人一人が防犯を心がけることで、安全・安心な町づくりにつながるということが分かったため、地域の人々が自分たちの住む町に関心を持つことができるような取組を考えるなど、今後の活動に活かしていきたいという意見が出ました。

活動の成果としては、次世代防犯ボランティアリーダー研修会に関するフィードバックは防犯ボランティアに参加する学生への新しい取組や課題発見の視点となり、学生防犯ボランティアを行う



学生同士の交流や活動の活性化につながったと考えました。

また、犯罪も形を変えており、サイバー犯罪などの見えない犯罪も増えていることを学びました。インターネットを頻繁に利用する学生ならではの視点を、ボランティア活動に生かすといった新しい取組や課題の発見ができました。



最後に、展望について発表します。私たちは、これから5つの視点を持って活動したいと考えています。

1つ目は、地域との関わりです。地域との関わりとは、防犯活動を大学内のみで完結させるのではなく、地域住民の方々に啓発して防犯意識を向上してもらうこと、大学と地域との交流を深めることだと考えます。具体的には、福岡県立大学に隣接されている小学校で防犯活動を開かせていただいたり、防犯メッセージを込めた演劇を行わせていただいたりなどして、交流を深めていきたいと思っています。

2つ目は、福岡県警の方々や、県の方々との連携です。性犯罪防止キャンペーンや防犯マップづくり、防犯グッズ制作などの活動をさらに協働して実施していきたいと考えています。そのために、現在の犯罪に関する意見交換やグッズ提案など、学生と警察の方々を交えた話し合いを今後も定期的に行い、関係を深めていきたいです。

3つ目は「ながら防犯」です。今後も、ながら防犯の呼びかけを、さまざまな場所で行う余地があると考えます。特に大学生で、初めて田川に来た学生さんや、「自分は大丈夫」と思っている方たちは当事者意識が低く、防犯を、少し難しいものとイメージしているように思います。そのような方たちに、誰もが気軽に実践できる、生活の中に防犯の意識を取り入れた、ながら防犯のポイントを伝えていきたいです。

4つ目は、「みんなで一緒に防犯」です。「みんなで一緒に防犯」は、先ほど述べた「自分は大丈夫」という意識を少しでも変えるために、重要な視点だと考えます。身近な犯罪の例を話で聞くこと、または映像で見ることもさらに効果的なことは、自分たちが当事者になった気持ちで考えることです。犯罪被害が自分にも起こり得ると考えるような雰囲気づくりに、皆で取り組んでいきたいです。

最後、5つ目は、若者の視点を取り入れることです。田川地域は学生など若い世代が多いという特徴を生かして、先ほど述べた地域防犯マップを商店街に掲示したことのよう、若い世代の発信を地域に住む多くの人に届け、防犯活動を浸透させていくことが期待できると考えます。また、先ほど紹介したステッカーのように、最近の流行りを取り入れた防犯活動を行えるのは、私たち

若者の特徴であると考えます。今後も、若者の視点を有効に用いて、積極的に防犯活動に取り組んでいきたいです。

この5つの視点を、多くの人に発信できる性犯罪防止キャンペーンや、子どもたちとの防犯マップ作りといった場を、今後も増やしていきたいです。また、5つの視点を踏まえた上で、研修会に積極的に参加し、防犯に対する学びを深め、知識をアップデートしていきたいです。

次に、私たち防犯サークルオリオンズの課題点を述べさせていただきます。

課題点は、主に3つです。

1つ目に、学内に向けた防犯の啓発活動が不足していることです。「みまもっち」や、オリオンズが製作した防犯グッズの普及が進んでおらず、せっかく防犯意識を高めるようなグッズがあるものの、それを活かしていないと感じています。

2つ目に、コロナ禍により活動が制限されていたことです。地域の方々と交流する防犯活動や、ステッカーの配布といった学内での活動など、予定していた活動があったものの、コロナ禍により制限がかかってしまい、思うように動けませんでした。また、長期間、対面活動ができていなかったことで、対面活動に慣れていない学生が多いのも課題です。

そして3つ目に、人間社会学部、看護学部といったように、多学部であることを活かしていない点です。オリオンズは、さまざまな専門性を持った学部生で構成されているものの、その専門性を活かした活動ができておらず、福岡県立大学ならではの活動が考えられたらと思いました。例えば、人間社会学部は社会統計学の知識と技能を生かし、伊田地区の犯罪発生件数をデータ化して適切な方法で統計を取り、犯罪の傾向を読み取った上で、地域の犯罪の特性にあった対策を講じるなどを考えています。また、看護学部は子どもの発達段階について学んだり、小児科での実習で子どもたちとのコミュニケーション能力を培ったりするため、子どもたちとの防犯活動の際に、子どもたちの防犯に対する学びをより深めるような指導ができることが期待できると考えます。

以上の5つを意識しながら、さらに力を入れて活動したいことは、防犯グッズの広報方法を工夫することと、対面活動を積極的に実施することです。

先ほど述べたように、オリオンズの課題点として「みまもっち」や、防犯啓発のステッカーなどの防犯グッズがあるものの、その普及が進んでい

ないことと、コロナ禍により対面活動の制限が生じていたことがあります。そのため、防犯に対し、関心の低い学生に興味を持ってもらえるような防犯グッズの広報方法を工夫し、普及につなげようと考えました。例えば、「みまもっち」のQRコードをノベルティグッズに貼って配布することなどを考えています。また、対面活動が制限されていると、広報活動や地域の人々との交流が進まず、活動の限界に達していたように思います。感染対策を継続しつつ、積極的に、対面での活動に力を注ぐことができるよう努めたいと考えています。



防犯グッズの広報方法を工夫

対面活動の実施

以上で、私たち福岡県立大学防犯サークルオリオンズの発表を終わります。ありがとうございました。

講 評

福岡大学 人文学部 文化学科 教授 大上 渉

私も大学教員であり、大学の運動部の部長もしているのでよく分かります。皆さんは主体的で、しかも積極的に活動されていて、とても感心しました。それが第一印象です。

一般のお話になりますが、大学とは多くの若者が集まる場所です。ということは、大学周辺では、大学生が被害者となる自転車盗や性犯罪が発生しやすいわけですね。そのために大学が所在する地域の刑法犯の認知件数が押し上げられてしまい、その地域の治安情勢に大きな影響を及ぼします。したがって、大学が所在する地域での大学生が被害者となる事件、場合によっては大学生が加害者となる事件、これらを抑制することで、その地域の治安情勢がかなり改善すると考えています、

しかしながら、ご発表にもあったと思いますが、大学周辺に下宿している学生にしろ、通学している学生にしろ、大学が所在する地域に対して関心をさほど示さない。あるいは、あまり愛着もない。こうした印象があるのです。オリオンズの活動は、大学生の犯罪被害を抑制すること、そして、大学生に地域の防犯に関心を持ってもらう意味でも、非常に意義のある取組だと思います。

オリオンズの具体的な取組としてエコバッグ、ステッカー、アクリルスタンド、キーホルダーといった、若い方の感覚にマッチした防犯グッズの制作、そして動画の作成。学生が興味を持ちやすい内容を取り入れている点が、とても評価できると思います。そして、先ほども申し上げた通り、こうしたことを通じて学生達の防犯意識を高めることで、地域の安全・安心に大きく貢献していることも、非常に評価できます。

一方で、課題もあるように思います。1つは、ここでは挙げられていませんでしたが、オリオンズの活動の持続性の確保です。大学の部活動やサークル活動に共通してみられることですが、主体的に活動している世代が卒業してしまったあと、後輩世代への引き継ぎがうまくいかずに、活動が停滞することがよくあります。そのためにはOGの方々にも定期的に来ていただいて、協力していただけるような体制づくりをする。そうしたことも、持続のための1つの方法だと思います。

そして、2つ目です。地域との、さらなる連携の強化が必要だと思います。オリオンズは防犯マップの作成などで、小中学校との連携を図りながら活動を行っていますが、防犯グッズの作成や公演などでの啓蒙活動は、どちらかというと間接的、側面的な支援にとどまっている印象があります。コロナ禍もあり、なかなか対面での活動は難しかったこととは思います。したがって、地域との連携を強めるのであれば、地域のニーズに合わせた活動が必要です。例えば、先ほどもあった防犯パトロール、見守り活動などに、積極的に参加する必要があると思います。いず

れにせよ、地域のニーズに合わせた活動を行うためには、まずは地域とのコミュニケーションを、これまで以上に密にするところから始まるのではないかと思います。

続けて、2点、質問させてください。

まず、次世代サミットに参加されたそうですが、その主催はどこですか。

もう1つ、オリオンズの活動に対する地域の方々の反応について、お尋ねしたいと思います。

発表者 ご指摘ありがとうございます。参考にさせていただきます。

ご質問の1点目、次世代サミットの主催の件ですが、実は、私たちふたりは参加できず、OGが参加いたしました。勉強不足で答えられず、申し訳ございません。

2点目の、地域の反応という点については、私たちから地域の方々に防犯を啓発するような活動、例えば、子どもたちが作った防犯マップを商店街に貼らせていただくなど、そうしたことは積極的にしています。しかし、そのフィードバック、どのような反応が来ているのかなどを知る手段が分からず、そのため、実行もできていませんでした。地域の方々の反応を知る手段、方法を教えていただきたいです。

大上 1つ目の質問については、もしお分かりになりましたら、後ほど教えてください。

2つ目ですが、やはり、何かをしたら、それに対する成果を測定したほうがよいと思います。通常は、アンケートを取るといった方法があると思います。しかし、それほどしっかりとしたものでもかまいません。直接、感想を聞いてみるだけでも、皆さん方の取組が地域の方に感謝されていることが実感できると思います。まずは地域の人々に、聞いてみることから始めるとよいと思います。

発表者 ありがとうございます。

ちよこっとパトロール実行委員会（熊本県）

皆さん、こんにちは。私たちは、熊本市東区にある託麻地域で取り組むちよこっとパトロール実行委員会です。私は実行委員長の角田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。このような盛大なフォーラムで発表できますことを大変光栄に思っている次第でございます。

また、本日は、熊本県警生活安全企画課から、託麻地域を管轄する熊本東警察署の生活安全課からそれぞれご参加をいただいております。ありがとうございます。

それでは早速ではございますが、発表に移らせていただきます。



私たちが取り組む ちよこっとパトロール事業

1. ちよこっとパトロールの概要
2. これまでの主な活動
3. 現在の課題
4. 課題解決に向けて
5. 今後の取組み



発表の内容は次の通りです。

- 1 番目、ちよこっとパトロールの概要。
- 2 番目、これまでの主な活動。
- 3 番目に現在の課題。
- 4 番目に課題解決に向けて。

最後に、今後の取組ということで、ご説明をさせていただきます。

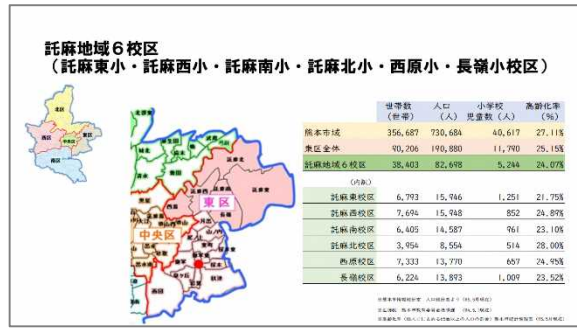
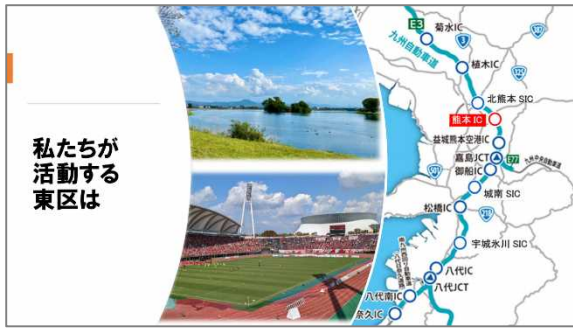


まずは、私たちが住み、活動を行っている熊本市について、ご紹介をさせていただきます。

熊本市は、県内人口の約 43.1%、約 73 万人が住む都市です。九州では、福岡市、北九州市に次いで、3 番目に人口が多い都市です。

熊本は、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、少しだけご紹介をさせていただきます。

ご存じの通り、加藤清正が築城した熊本城。水道水源のすべてを地下水でまかなう日本一の地下水都市 熊本市。郷土料理で言えば馬刺しや、からしレンコン、熊本ラーメンもございます。そのほかにも、雄大な阿蘇や温泉、豊かな水産資源を持つ天草などがございます。よろしければ、この夏は熊本に足を運んでいただければと思います。



それでは、私たちが活動を行う東区について、ご説明いたします。

市の中心部にある巨大な湖、水前寺江津湖公園、そして、サッカーJ2で活躍するロアッソくまもと、熊本インターチェンジがございます。

さらに、託麻地域と言いますと田舎のように思われるかもしれませんが、6つの小学校区がございます。託麻東、託麻西、託麻南、託麻北、西原、長嶺校区です。6つの小学校には約5200名の児童、4つの中学校には約2500名の生徒が通学しております。

また、地域では高齢化も進んでおり、4人に1人は高齢者となっています。宅地の造成により、住宅地の建設が進み、人口が増えているところです。

ちょこっとパトロールとは

- 日頃のジョギングやウォーキング、ペットの散歩をしながら「あいさつパトロール」を行う「防犯ボランティア」活動のこと
- 参加者：
 - ①託麻地域に在住・在勤・在学の方が対象
 - ②18歳以上の方（高校生は除く）
 - ③託麻地域でジョギング、ウォーキング、ペット等の散歩等をされる方
- 活動地域：託麻地域6校区
託麻東・託麻西・託麻南・託麻北・西原・長嶺の6つの小学校区エリア
- (R5.5.23現在) 参加者 1,232名

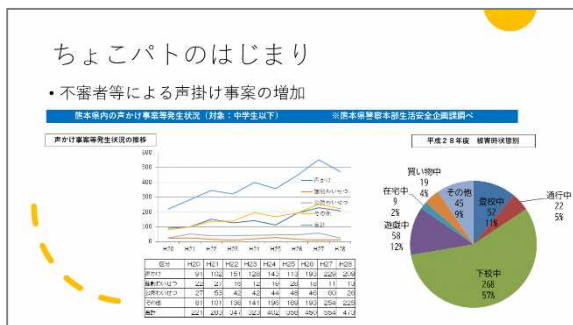
名前の由来・実行委員会の組織

- ちょっとした時間を地域のために活動していただけないか。
 - ・「ちょこっと」+「防犯パトロール」
- ⇒『ちょこバト』
- 設立：平成31年（2019年）4月25日
- 実行委員会組織
- （託麻地域6校区防犯協会、地域内の6小学校、4中学校、託麻商工会、熊本東警察署、熊本市（託麻まちづくりセンター））

私たちの活動「ちょこっとパトロール」とは、一言で言いますと「ながら見守りパトロール」でございます。ジョギングやウォーキング、ペットの散歩をしながら、あいさつパトロールを行う防犯ボランティア活動です。

参加者の要件としては、託麻地域に在住・在勤・在学の方が対象です。設立から5年目を迎え、現在、登録者は1200名を超えている状況でございます。

この「ちょこっとパトロール」の名前には、「ちょっとした時間を地域のために活動していただけないか」というメッセージを込めています。設立は、平成31年4月です。今年で5年目を迎えます。また、組織として、6校区防犯協会、地域内の小中学校、託麻商工会、熊本東警察署、熊本市の計19団体で、委員会の形態をとっています。



ちょこっとパトロールは平成31年に設立されましたが、その発足の経緯をお話しします。

その当時、地域の中で一番の課題と感じていたのは、子どもの見守り対策でした。当時、全国各地で、子どもを狙った犯罪が増加しておりました。平成30年には、新潟市で起きた小学2年生の女

児殺害事件が発生しました。これは殺害後に線路に遺棄された事件です。また、熊本県においても、子どもに対する声かけ事案等の発生が増加しました。平成 20 年には 221 件。そして平成 28 年には、473 件と倍増しました。特に、下校中の被害が約 60%を占めており、子どもをどのように守るかが地域の大きな課題となりました。

実際、私たちが住む東区においても、平成 31 年 4 月、桜木小学校の女子児童が下校中に、用水路に突き落とされる事案が発生しました。また、同年 5 月には西原校区において、下校時間帯に刃物を持った男が住民や警察官を切りつける事件が発生しております。

現状として、地域においては

- これまでは防犯協会が中心となって子どもの見守り活動を実施。
⇒しかしながら、**会員の高齢化や人材不足**。仕事を退職される方に声をかけても忙しいとの理由で加入を拒まれるという事態。
- そこで、これ以上、防犯協会に負担を掛けることはできない。
⇒そのため、登下校中に子どもの見守りをやってもらえる人材を地域で確保するために新しい取組として本事業を企画。
新たな防犯ボランティアの育成を図る。

当時、地域において、自治会や防犯協会の方々に、見守り活動を行っていただいておりますが、会員の高齢化や人材不足に悩まされる状況でした。そこで、新たなボランティア組織を企画し、人材を育てたわけです。実際に、実行委員会を発足後、3 回の会議を経て本事業を立ち上げ、活動を開始しました。スムーズに進んだ要因としまし

ては、当時の防犯協会長が連携し、皆、仲が良かったことがあります。そして、実行委員会のメンバーでもある商工会も、地域活動への意欲が大きかったこと、そして何より、小中学校の学校長の理解があったこともあります。

では、どのようにしたら、防犯ボランティアに参加していただけるのか。防犯ボランティアをやってくださいと言っても、なかなか人は集まりません。そのため、日常生活のついでに気軽に参加できる「防犯ボランティア」、この気軽さをコンセプトにしております。もしかしたら、「地域活動で何か貢献したい」「ボランティアなど、少しでも活動ができないか」という思いの方がいて、そこに本事業のこの提案がマッチしたため、多くの登録があったのかもしれない。

では、どうやったら地域住民に防犯ボランティアに参加してもらえるのか?

「ちょこパト参加者への募集ポイント」

『気軽さ!』

- 自分が好きな時に活動が出来る。
- 役員等もなし。活動が義務ではない。
- 何かのついでにできる。
- 少しの活動で地域貢献・社会貢献を果たすことができる。
- 熊本弁で、自らが自らの意識で『できる時間にできるしこ』の活動を行う。

この取組が広がる重要なポイントは4つ

- ①若者が参加しやすいネーミング
- ②若者が欲しいと思うTシャツのデザイン
- ③参加者の負担を極力なくす(役員なし、好きな時にできる)
- ④継続することで商品券を贈呈

さらに、この取り組みを広げるために考えたのが、まずはネーミングでございます。親しみやすく、呼びやすい名前にしました。

そして、若者がほしいと思うデザインの着衣。実際には、小学校 PTA の保護者にアンケートを取って、デザインを考えました。

さらに、先ほども申し上げたように、気軽に活動できること。

また、活動の果てには特典を得ることができるよう、スタンプカードを設け、QUO カードを 1 年間に 1 回、配布することにしました。

次に、活動の目的についてでございます。

1つ目。地域全体で子どもや女性、お年寄りを見守ることで、犯罪発生を抑止します。

2つ目が、気軽に参加できる活動であるため、普段から地域活動に参加していない人、若い人も参加しやすいこと。おそろいの赤いユニフォームを着用しているため、参加者同士の連携意識にもつながります。

また、子どもたちと挨拶を交わすことで、世代間交流やコミュニケーションが深まります。子どもたちにとっても、地域の人に見守られているという安心感が生まれます。

3つ目。歩くこと、走ることで、体力・健康づくりができます。

4つ目に、多くの方に登録をいただくことで、個人の防犯意識の向上が図られるとともに、地域全体で防犯活動、防犯意識を高めることができます。

こうした1つの活動で、一石三鳥にでも、四鳥にでもなる。これもポイントです。

加入促進のために、いくつかの特典も設けております。

まず、申込書を書いていただいた方に、この赤いオリジナルTシャツ、もしくはビブスを1着、無料で提供しています。

次に、スタンプカードを配布します。校区内のセブンイレブンさんをお願いをして、オリジナル着衣を着た人が来店したら、スタンプカードにスタンプを押してもらいます。50ポイント貯まったら商工会におきまして、1年度につき1回ではございますが、QUOカード500円分と交換できるようにしました。さらに、熊本健康アプリ事業と連携し、20ポイントが獲得できるようにしています。このアプリは、健康づくりに取り組むとポイントが貯まり、年度末に商品を獲得できるものです。

そして、活動時の万が一のための、ボランティア保険にも加入しています。

このようなことを通して、参加者の加入促進、活動の活性化を図っております。

ちよこパトの活動目的

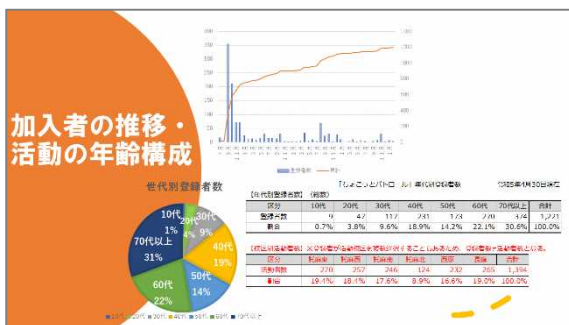
- 子どもや女性、お年寄りを狙った犯罪の抑止
- 参加者の輪を広げて、地域コミュニティの活性化
- 歩くこと走ることでの健康増進

散歩やジョギングなど自己の健康増進のついでに
あいさつパトロールをすることで地域の防犯力向上を目指します！

散歩の趣味
ジョギング + あいさつ
パトロール = 地域の
防犯力向上

ちよこパトの加入特典

- オリジナル着衣 (Tシャツ・ビブス) の1着目を無料で配布 (2着目以降は、2,000円で購入)
- パトロール重点エリア・セブンイレブン店舗掲載地図を配布
- スタンプカードを配布=50ポイント貯まったらQUOカード500円分と交換 (1年度に付き1回)
- 熊本健康アプリ「もっと健康!げんき!アップ」または「もっと健康!げんき!アップ」をダウンロードし、ポイントが貯まり、年度末に商品が獲得できる
- 熊本県ボランティア保険への加入



続きまして、加入者の推移、活動の年齢構成です。

加入者については、募集開始を行った平成31年9月、そして翌月の10月の2カ月で、約560名の方に、ご登録をいただきました。

当初は、「3年間で300人くらい」を想定していましたが、それをわずか数カ月で達成したので、非常に驚きました。

その要因は、学校長やPTA 会長さんの働きかけによりまして、多くの PTA の方に参加していただいたことです。その後は毎年、活動しやすい 9 月あたりに、定期的に募集をかけますので、毎年、その時期に登録者が増えます。年間にして、約 100 名ずつ増えています。

加入者の年齢構成としましては、50 歳以上の方が 67%、30 代、40 代が約 30%を占めています。私たちとしましては、もう少し若い方の活動の参加を増やしたいと考えているところでございます。

犯罪件数の推移です。託麻地域におけるわいせつ・声かけ事案の発生件数は、ちよこっとパトロール活動が直接の理由かどうかは分かりませんが、活動開始以降、年々、減少に向かっていることが確認できております。また、平均して、5 月、6 月、そして 2 学期が始まる 9 月に事案発生が多いことが、確認されております。



私たちは年間を通じて、次のような活動を行っております。

参加者に対しては、自ら好きな時間にできることをしていただくことをお願いしているため、活動は強制的ではありません。ただ、年に 3 回、4 月、10 月、12 月に、防犯協会長を中心として、イベント仕立てで下校時の見守り活動を行って

おり、あわせて登録者に対して、一緒に参加してみませんか、と、広報誌を通じて呼びかけを行っています。また、12 月の終業式の日には、校区一斉防犯パトロールに合わせてごみ拾い活動を行っています。参加者にはトンゴとごみ袋を配布し、通学路の美化活動を、児童と一緒に帰宅しながら行ってまいります。

活動としましては、下校時、校門で子どもたちに、気をつけて帰るように呼びかけを行い、児童と一緒に帰ります。小学生からは、「いつもありがとうございます」という一言や、「いつも見守ってくださり、ありがとうございます」という感謝の折り紙をいただくこともあります。これが活動の大きな励みになります。

こちらが活動風景です。

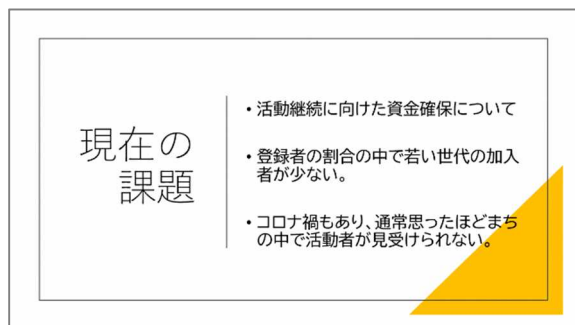
左上は、各校区の運動会に参加して、参加者を募集している写真です。また、バイクでの、ちよこっとパトロール。あるいは学校周辺、団地での、T シャツを着ての散歩。こうした活動の風景でございます。



最近の取組としましては、地域における活動をより知っていただくとともに、地域の防犯力を高めていることを示すため、のぼり旗を作成し、各校区の公園やゴミステーション等にご協力いただき、掲げさせていただいています。また、オリジナルの着衣を身につけて、地域のイベントの活動に参加します。



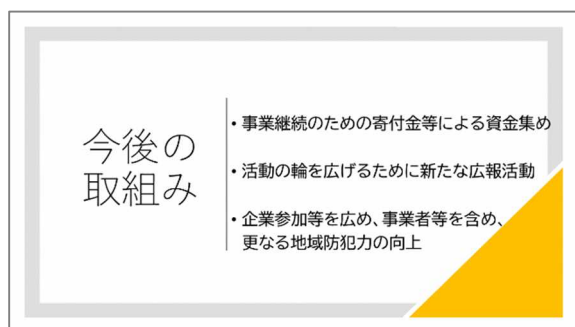
昨年の9月には熊本県より、「犯罪の起きにくいまちづくり活動功労団体」の表彰をいただいております。熊本市が発行する市政だよりなどでも、広報活動を行っているところでございます。



現在の課題といたしましては、活動継続に向けた資金確保がございまして、発足当時は熊本市より、3年間の期限付きで補助金が出ておりました。しかし、それ以降は予算がなくなりました。次年度からは予算がなくなるとのことで、これが今後の課題の1つとなっております。

また、登録者の割合の中で、若い世代の加入者が少ないことも挙げられます。若い方は仕事に出ていますし、ボランティアに参加するのは大変だとは思いますが、しかし、若い人の力も必要なので、若い人の加入も募っていきます。

また、コロナ禍もあり、思ったほど活動者が見受けられませんでした。本来ならば先ほど申し上げたように、1200名以上の会員がいらっしゃるのので、各校区でTシャツを着た方がそこそこ見られるはずなのです。しかし、あまり見受けられませんでした。



今後の取組です。
私たちが今、一番取り組もうとしていることは、ちょこっとパトロールの活動を地域の多くの皆さんに知っていただくことです。知っていただくことで、子どもたちや地域の人たちに安心感を与えとともに、さらに、「自分たちでも何か活動できないか」と感じていただく。

また、参加者を増やすことで地域の安全・安心、そして一人一人の防犯意識の向上、さらには地域防犯力の向上を目指したいと考えております。

また、市政だよりや地域の広報誌、回覧板等で情報を発信することで、若い方や企業の方にも参加していただく。そうすることで、活動に勢いと広がりを見せていきたいと考えております。これにより、事業継続に係る資金面や、活動の活性化を図ることができるものと考えているところでございます。

以上で、私たちが取り組んでおります、ちょこっとパトロールについての発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

福岡大学 人文学部 文化学科 教授 大上 渉

今、おふたりがお召しになっている、若者が「欲しい」と思えるようにとデザインされたTシャツとビブス。赤地で、黒の差し色が入っていて、若者ではない私も格好良いと思いました。これは、最初に参加したときに、無料で配布されるということですが、大変な支出ではないでしょうか。

ちょこパトさんは、防犯活動を住民のジョギングやウォーキング、ペットの散歩など、日常的な活動に入れ込んでいます。参加するときの敷居を下げて、自主的に住民の皆さんが防犯活動を行いやすくすること、そして地域の防犯への関心を高められるということ、そしてあいさつをすることで、住民同士のコミュニケーションや交流が促進されて、地域の雰囲気形成にも貢献していること、こうしたことは、とても意義があると思います。

さらに、活動を継続することで商品券、アプリのポイントなどを贈呈するといったインセンティブをモチベーションとするのも素晴らしいと思いました。

最初にご発表された小島中学校区でのコメントの際にも申し上げましたが、地域において、各種事案が発生しやすい曜日、時間帯、場所等の提供を警察から受けて、「水曜日の夕方はこの付近で声かけ事案が多く発生しているので、散歩やジョギングのコースにその場所を含めていただくと、防犯効果がさらに上がります」といった情報を、メンバーの皆さんに提供するような仕組みがあれば、防犯活動の実効性が高めることができると思います。メンバーにとっても、いつもの散歩に変化が加わり、マンネリ化を防げます。

また、若い方々の参入が課題として挙げられていました。熊本には、熊本市内の大学生で構成される防犯ボランティア団体の「防犯若武者ベアーズ」があります。昨年度の、この防犯ボランティアフォーラムに登壇されていました。こうした団体との連携が、課題解決の糸口になるだろうと思います。

それから、資金源の確保についてですが、地域の祭などに事務局が出店を出して、そこでの売上を活動資金に充てるといったやり方もあります。確か、昨年の防犯ボランティアでは、福岡の小郡の団体がそのようにして資金を得て、活動をしているといったご発表がありました。こうしたことも参考になるのではないかと思います。以上になります。

新都心安全なまちをつくる会（沖縄県）

皆さん、こんにちは。沖縄県から参加しております。皆さんの活動が、非常に素晴らしいと思っております。

先日、福岡、そして大分、佐賀では、大変な水害があったと聞いております。私たち沖縄県も、テレビのニュースでしか見ていないのですが、今回の水害は本当に大きかったのだと、つくづく思っております。気を落とすかもしれない、しかし、気持ちを高く持って、前に進んで行って、頑張ってもらいたいと思っております。

私は、「新都心安全なまちをつくる会」の代表をしております上原幸吉と申します。本日はよろしくお願いたします。



九州ブロック防犯ボランティアフォーラム

新都心安全なまちをつくる会 (那覇市) の取り組みについて

令和5年7月22日(土)

1

1. 活動地域

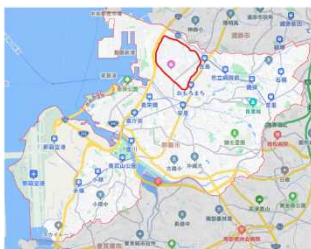
新都心安全なまちをつくる会は、那覇市の北部に位置する再開発地区である「新都心地域」の全域（安謝、天久、上之屋、おもろまち、銘苅。面積約1.92km²）で活動している。

2

前半は、「新都心安全なまちをつくる会」の、事務局長5年目の池原哲之が務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

私たち「新都心安全なまちをつくる会」は、那覇市北部に位置する再開発地区、新都心地域の全域で活動しております。

1-1. 新都心地域の位置

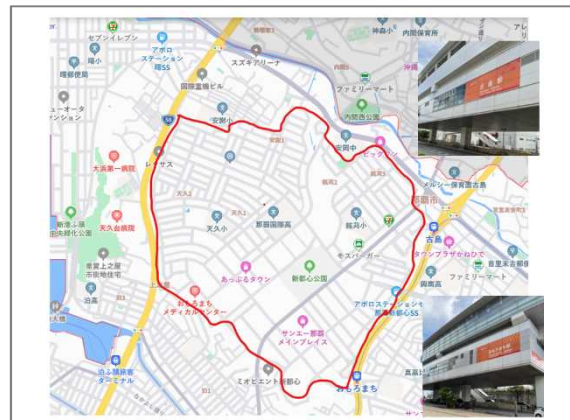


那覇市マップ (Yahoo地図より)
那覇市面積約39.98km²



那覇新都心地域
面積約1.92km²

3



那覇市の面積は、約 40 平方キロメートルですが、新都心地域はその 1/20、1.92 平方キロメートルほどになります。

こちらは、少し拡大した図になります。約 20 年前、それまで鉄軌道がなかったのですが、沖縄でも那覇市では、モノレールが通るようになりました。上原会長は古島駅のほうに、私、池原は、おもろまち駅のほうに住んでおります。

1-2. 新都心地域の概要①

※Wikipedia参照

- ・那覇市の北部に位置する再開発地区で、1951年に土地収用令によって強制接收され米軍の住宅街となっていたが、1987年5月に全面返還され、新たな那覇の新都心として造成、再開発された。面積約192ha=1.92km²
- ・県と市の要請を受け、都市再生機構が土地区画整理事業を施行、造成。

はじめに、新都心地域の概要について触れさせていただきます。

那覇市の北部に位置する再開発地区で、1951年に土地収用令によって米軍に強制接收され、米軍の住宅街となっていた地域です。今から36年前の1987年に全面返還され、新たな那覇の新都心地域として造成、再開発されました。県と市の要請を受けUR、都市再生機構が区画整理事業を施工、造成した地域であります。

米軍の住宅街時代イメージ (画像は現在の浦添市内)



米軍の住宅街時代イメージ (画像は現在の浦添市内)



画像は隣接する浦添市内です。新都心にも以前はフェンスがあつて、その向こう側に米軍の住宅がありました。今でも那覇市の隣の浦添市では、このような米軍基地が残っております。こちらは返還予定のキャンプ・キンザーです。

1-2. 新都心地域の概要②

- ・市中心部のほとんどが那覇空港の制限表面区域内にあるため超高層ビルが建てられないのに対し、当地は同空港の制限表面の区域外となっており、沖縄県で最も高い高層ビル(高さ104m)も当地にある。

※新築分譲マンション価格(R5)
◎17万円/㎡(75㎡:5,775万円)



那覇市内のほとんどは、那覇空港の高さ制限区域に当たるので、超高速ビルが建てられません。しかし、新都心地域はそこから外れた部分があり、沖縄県で最も高い高層ビル、約30階建てのマンションが、唯一ある地域でもあります。

新都心地域隣接地の街並みの一部



9

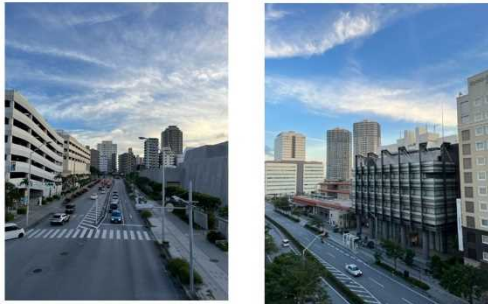
1-3. 新都心地域の街並み①



10

また、隣接する地域では、幅員がこのように3mから4mぐらいしかないところがあります。しかし、新都心地域は区画整理されましたので、非常に幅員が広い道路、統一感のある建物が並んでおります。

1-3. 新都心地域の街並み②



11

1-3. 新都心地域の街並み③



12

画像は、一番大きい道路です。左側にショッピングセンターがあり、県立博物館・美術館があり、日銀や公庫の建物が隣接しております。

このように幅員が広い道路もあります。

地権者の皆さまは、49%ぐらい減歩され、公園や道路など公共に渡して、返還されたと伺っております。

1-3. 新都心地域の街並み④



13

1-4. 新都心地域の人口の推移①

人口の推移

	平成14年	平成21年	平成28年	令和2年	令和5年
那覇市	306,273人	316,693人	323,586人	321,498人	315,421人
新都心地域	6,386人	18,043人	22,021人	23,207人	23,664人

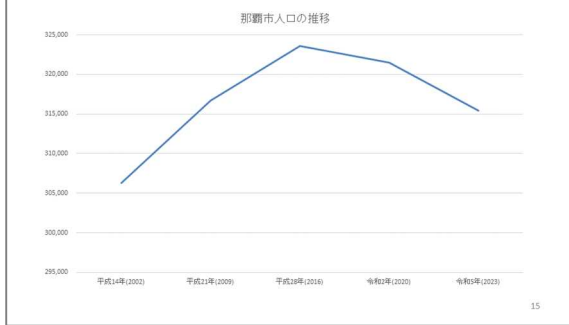
世帯数の推移

	平成14年	平成21年	平成28年	令和2年	令和5年
那覇市	118,614	133,665	147,909	155,366	158,455
新都心地域	2,654	7,333	9,462	10,336	11,038

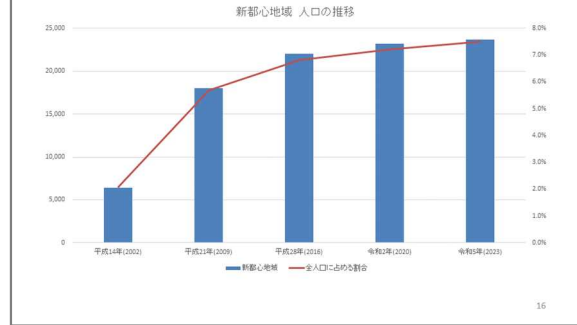
14

また、この新都心地域の人口は、平成14年では6300名ほどでしたが、今年度は2万3000人余りになっております。世帯数も平成14年当初は2600世帯余りでしたが、今では1万1000を超える世帯が集まっております。

1-4. 新都心地域の人口の推移②



1-4. 新都心地域の人口の推移③



那覇市では、平成30年をピークに人口が減少し始めております。しかし、新都心地域は緩やかに、まだまだ伸びている地域となっております。面積は市全体の1/20、5%なのですが、人口は市全体の7%を超える人たちが住んでいる地域であります。

2. 団体の概要①

新都心安全なまちをつくる会は、新都心地域に住民が増え、商業施設へ多くの利用者が往来し、合わせて犯罪発生件数も増加傾向にあったことから、地域が連携して、防犯の情報を共有し、犯罪を抑止することを目的に平成16年7月に設立。

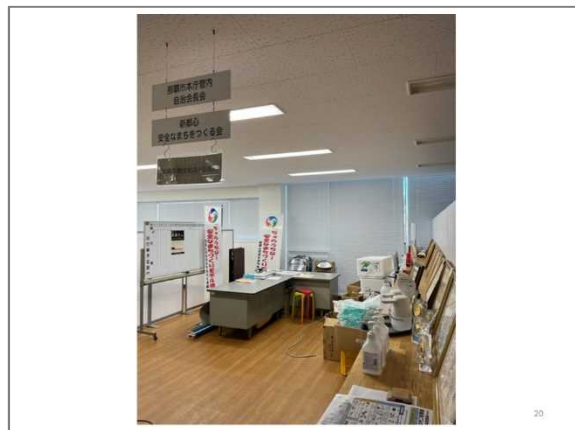
2. 団体の概要②

- 平成19年には、那覇警察署より防犯モデル地区として委嘱を受けるほか、平成26年には、なは市民協働プラザ(公共施設)内に行政関連団体として事務局を置くこととなった。
- 多年にわたり防犯活動に尽力したとして、令和3年度防犯功労団体(警察庁長官、公益財団法人全国防犯協会連合会会長連名表彰)を受賞。

我々の会は、新都心地域に住民が増え、商業施設へ多くの利用者が往来し、合わせて犯罪発生件数も増加傾向にあったことから、地域が連携して防犯の情報を共有し、犯罪を抑止することを目的に、平成16年7月に設立されました。

平成19年には、那覇警察署より防犯モデル地区として委嘱を受けたほか、平成26年には公共施設である「なは市民協働プラザ」に、行政関連団体として事務局を配置することとなりました。

また、多年にわたり防犯活動に尽力したとして、令和3年度防犯功労団体を受賞しております。



こちらが、なは市民協働プラザです。つい10年ほど前は、那覇市が一部を市の庁舎として使っ

ておりました。今は、行政関連団体の事務所や、会議室として活用されております。

ここに、5坪ほどですが、事務所を置いております。公共施設であり、行政関連団体なので、家賃、光熱費等は発生しておりません。また、十数団体が入居している中で、我々は唯一、補助金をいただいている団体となっております。

2. 団体の概要③

・構成員は62団体

那覇警察署、那覇地区防犯協会、
自治会13、小中学校・PTA8、
高等学校・PTA2、企業・団体29、行政7

・役員は80名

会長1名、副会長14名、理事62名、青年
部会長2名、監査役1名、事務局長1名

21



構成員は 62 団体です。那覇警察署や防犯協会、自治会が 13、小中学校・PTA が 8、高等学校・PTA が 2、そして企業・団体、行政です。

役員は上原会長をはじめ、80 名です。

平成 16 年当初は、地域の『新都心かわら版』で、発足当時の会議の様態も特集していただきました。

「沖縄県ちゅううちな一安全なまちづくり条例」①

沖縄県では、県・事業者・県民が連携を強化し、安全なまちづくりに関する取組を促進して、犯罪のない安全・安心な沖縄県をつくるため、平成16年4月に「ちゅううちな一安全なまちづくり条例」を制定。

23

「沖縄県ちゅううちな一安全なまちづくり条例」②

・地域の自主防犯ボランティア団体数
平成15年－98団体
→令和4年－540団体
ボランティア活動参加者数17,297人
・犯罪(刑法犯)の発生状況
平成14年－25,000件
→令和4年－6,778件
☆県民総ぐるみでの取組みが功を奏したものと考えられています。

※沖縄県HPより

24

今から 20 年ほど前、沖縄県では「沖縄県ちゅううちな一安全なまちづくり条例」を制定しました。「ちゅううちな一」は「美しい沖縄」という意味です。県では、県・事業者・県民が連携を強化して、安全なまちづくりに関する取組を促進し、犯罪のない、安全・安心な沖縄県をつくるために、この条例を制定しました。そのおかげで、地域の自主ボランティア団体が、平成 15 年当初は 98 団体だったところ、昨年は 540 団体、ボランティア活動参加者数も 1 万 7000 人と大幅に増えております。

また、全国的にも共通しておりますが、平成 14 年に県内の刑法犯発生件数が 2 万 5000 件だったところが、昨年は 6778 件となり、県民総ぐるみでの取組が功を奏したものと考えられております。

那覇市におきましても、犯罪認知件数が10年前は6600件余りだったものが、昨年は2000件を切る件数となっております。

新都心にも、交番が10年前に1つ、その後、日銀那覇支店が他の地域から移ってきたことに伴って、交番が2カ所となりました。

・那覇市の犯罪認知件数の推移

平成15年	平成25年	平成29年	令和4年
6,616件	3,239件	2,578件	1,912件

・「沖縄県ちゅうちなー安全なまちづくり条例」施行(平成16年)
・新都心交番開所(平成16年3月)
・おもろまち交番開所(平成19年12月)

25

沖縄県の少年非行の特徴について

刑法犯少年のうち、中学生が約44.2%を占めており、沖縄県は全国平均(25.7%)と比較して中学生の占める割合が高い。

「令和4年 少年非行等の概況」沖縄県警察本部より

26

ここで沖縄県の、少年非行の特徴を紹介したいと思います。

刑法犯少年のうち、中学生が約44%を占めております。全国平均25%と比べても1.8倍ほど、中学生の占める割合が大変多い地域となっております。我々としても、このあたりを危惧しており、それが復帰以来、この40年余り、ずっと続けております。

3. 活動内容①

地域安全パトロール活動

27

地域安全パトロール活動

【活動実績】年3回開催(コロナ禍前年5回開催)
プラカードやのぼりを持ち、①安全なまちをつくりましょう、②子供たちを犯罪から守りましょう、③飲酒運転はやめましょう、④振り込め詐欺に注意しましょう!と唱和して、地域巡回パトロールを行う。

【参加者】 自治会、学校・PTA、青少協、企業・団体等
※平成28年度より年2回、内閣府沖縄総合事務局の青色回転パトロール隊と合同で出発式を開催。

28

これらの背景をもとに、活動内容を紹介します。

まず、地域安全パトロール活動です。活動実績は年3回ほどです。コロナ前は、年5回ほど開催しておりましたので、そろそろ同じぐらいの頻度で開催できるのではないかと考えています。プラカードやのぼりを持って、「安全なまちをつくりましょう」などと唱和しながら、巡回パトロールを行っております。

参加者は、自治会や学校・PTA、中学校区青少協や企業団体となっております。

また、平成28年度より年2回、内閣沖縄総合事務局の青色回転パトロール隊と合同で出発式を開催しております。

先ほどご紹介した『新都心かわら版』でも、このように防犯パトロールを特集していただいております。



これは、出発式の模様です。那覇市長にも激励の挨拶をお願いしました。那覇市長が出席する際は、那覇警察署長にも来ていただいております。



このように、青色回転パトロール隊も参加していただいております。

また、各団体には、なるべくのぼり旗を持って、パトロールに参加していただいております。それでは、ここから、会長の上原に代わります。



私たち新都心地域では、周辺地域も含めて、防犯につながるパトロールを行っています。

この立ち上げのきっかけは、他市で二十歳の女の子が殺害されたことです。その前にも暴行事件など、いろいろな事件がありましたが、その事件が発生後、私たち新都心地域はそのようなまちになってはいけないと、犯罪のない新都心地域を目指してこの団体を立ち上げました。

パトロールには、最初の7、8年は、200名から300名が参加してくれました。企業の方も、皆さん、参加してくれました。

パトロールするときは、まち全体を全員で練り歩きます。これは、コミュニティを作るためのパトロールでもあります。企業は企業名を書いたのぼり、そうでない方は懐中電灯、誘導灯、プラカードなどを持って、「まちを美しくしましょう」「公共物を大切にしましょう」などと唱和しながら1km近くを歩きます。

歩行者とすれ違ったら、全員であいさつします。この団体は、あいさつから始まっています。「まずは、あいさつから始めましょう」ということです。

以前は風評もありました。「新しいまちは、犯罪が起きるまち」という他市町村からの風評です。しかし、実際にはそうではありませんでした。私はこれを立ち上げて、安心して住めるまちにしたいという気持ちで活動を行っております。また、こうした活動をして連携することで、地域が栄えれば企業も発展する。その気持ちで動いています。

3. 活動内容②

年末美化清掃活動(CGG運動)

34

年末美化清掃活動(CGG運動)

【活動実績】

毎年12月第3日曜日に、新都心公園を中心に、CGG(クリーン・グリーン・グレイシャス)運動と連動した「年末美化清掃活動」を実施。

【参加者】

地域の各自治会、企業・団体のほか、小学生、中学生、高校生も参加。

参加者数: 1,000名超。

35

しかし、パトロールだけでまちは安心・安全になるのかと言えば、そうではありません。

新都心では、毎年12月の第3日曜日に、県主催のCGG運動と連動した「年末美化清掃活動」をしています。「CGG」とは、「クリーン・グリーン・グレイシャス」です。



中学校区で美化清掃すると、だいたい学校の周辺地域だけの清掃になるのですが、私たちはそれをチャンスだと捉えて、「子どもたちを地域に返してください」と言います。地域に子どもたちが戻れば、地域の自治活動を知ってもらえます。自治会がどんな活動をしているのか、会長は誰か、役員はどんな人なのかを知ることができます。そして、一般の人たちと交流ができるのです。輪ができるのです。ですから、地域に返していただきます。



このCGG運動と連動した年末美化清掃活動は、私が声かけをしています。声かけをすると、毎年1000名以上が参加して下さいます。一番少ない時期は3年前、コロナが一番強い時期でした。そのときは「500名以下に抑えましょう」ということでしたが、それでも600名は自主的に参加してくれました。

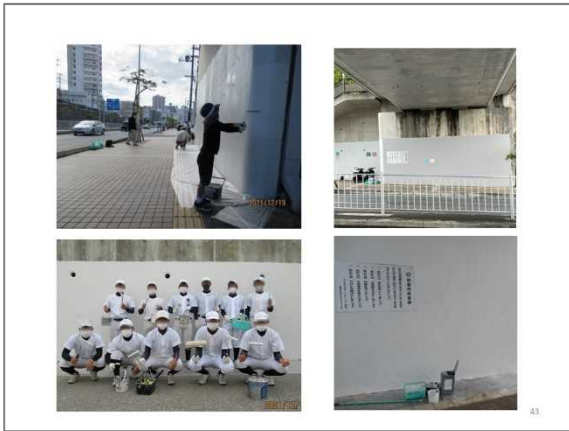
基本的には小学生、中学生のCGG運動でしたが、やはり、高校生にも参加させた方がほうが良いだろうということで、今では2校に参加していただいております。

みんなで作る安心の街
月刊「安心の街」に、2018/4より

令和3年度新都心地区年末美化清掃活動
まちをきれいに♪ 気持ちもきれいに♪

令和3年度新都心地区年末美化清掃活動

美化清掃では、子どもたちに落書き消しもお願いしています。これは、きれいにしたあとです。その上に、「落書きをしたら罰則が与えられます」と掲示しました。これで、落書きが減っていききました。建物やシャッターの落書きを、私たちは、全部消していききました。



駅の下にトンネルがあります。ここは非常に犯罪性の高いところです。蛍光灯が付いていますが、真っ暗です。そこに、子どもたちが海の絵を描きました。クジラだったり、マンタだったり、小さい魚だったり。現在、近隣の学校と連携し、「トンネルアート」を企画しています。

美化清掃については以上です。

皆さんから、たくさんの質問をいただきたいと思います。その質問を持って沖縄に帰り、我々の団体も創意工夫をしながら頑張っていきたいと思っています。

5. 課題について

- (1) 企業・団体内の人事異動や自治会加入率の低下に伴う参加団体・者数の減少
- (2) PTAや青少協活動の停滞に伴う参加者数の減少
- (3) メンバーの高齢化、後継者や人員の確保

それでは、レジメに沿いまして、3 つほど課題をご紹介します。

企業・団体内の人事異動、また、自治会加入率は那覇市では平均で 16%、私も加入している自治会は 5%ですが、こうした加入率の低下に伴う参加団体・参加者数の減少があります。

そして、PTA や中学校地区青少協活動の、コロナ禍による停滞に伴う、参加者数の減少。

さらに、メンバーの高齢化、後継者や人員の確保。こうしたものが挙げられます。

6. 課題の解決に向けた取組方策①

地域防犯パトロール活動や年末美化清掃活動を継続的に実施し、実施の際は、地域での宣伝効果を図るため、参加団体、企業の名称が記載されたのぼり旗を掲げる等、参加団体の広報活動にも寄与するよう努めている。



参加団体、企業の名称が記載されたのぼり旗を掲げることで、参加団体の広報活動にも寄与

<主な参加企業>

大和ハウス工業(株)沖縄支店、那覇新都心郵便局、琉球銀行、沖縄銀行、沖縄海邦銀行、コザ信用金庫、鹿児島銀行、JAおきなわ、全保連株沖縄本社、サンエー那覇メインプレイス店

次に、取り組み方策です。コロナ禍であっても、防犯パトロール活動や年末美化清掃活動は、過去3年、実施しております。実施の際には地域での宣伝効果を図るため、そして参加団体や企業団体の皆さんの広報活動に寄与するため、のぼり旗等を掲げるといった工夫もしていただいております。建設会社や銀行、大型スーパーマーケットなどの企業の皆さんに、参加していただいております。

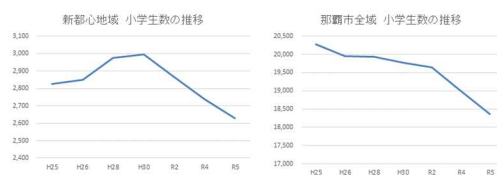
6. 課題の解決に向けた取組方策②

地域防犯パトロールに青年会も参加して、若い世代の後継者育成に努めるほか、年末美化清掃活動には、地域の小・中・高校に児童生徒の参加を呼び掛け、若い世代が地域に愛着が持てるよう努めるほか、ボランティア証明書を発行する。

50

小学生数の推移

	H25	H26	H28	H30	R2	R4	R5
新都心地域	2,827	2,848	2,976	2,997	2,866	2,738	2,630
市全域	20,270	19,947	19,935	19,779	19,641	19,002	18,363



51

また地域防犯パトロールには、地域の青年会にも参加していただいて、若い世代の後継者育成に努めています。年末美化清掃には、地域の小学生、中学生、高校生にも参加していただいて、地域に愛着を持っていただけるように努めています。

また、ボランティア証明書も発行しております。最近ではSDGs関係で、ボランティア証明を発行してほしいという要望がかなりあるようです。と言いますのも、新都心地域の小学生が、令和から減ってしまっています。大変人気の地域で、右肩上がりであったのですが、今となっては那覇市内の減少率以上に、ここ数年、減少している割合が増えています。地域としても、そうしたものに危機感を抱いております。

このように中高生が参加したら、ボランティア証明書を発行しております。



52

6. 課題の解決に向けた取組方策③

新規イベントとして「トンネルアート」を実施することで、落書き防止と近隣の学校との連携を強化する。



近隣の高校生と中学生が共同で描いたトンネルの壁面

53

また、新たな取組として、トンネルアートを企画しています。近くの興南高校の生徒の皆さんと、今月末より開始する予定となっております。

7. 那覇市の取り組み①

(1)「那覇市安全で住みよいまちづくりに関する条例」制定(平成14年)

①安全で住みよいまちづくりのための支援及び推進協議会の開催(年2回)

関係団体、機関等で組織する那覇市安全で住みよいまちづくり推進協議会を必要に応じて開催し、安全なまちづくりに関する提案や情報交換などを行う。

②自治会、通い会、PTA団体等の行う防犯パトロール活動に対し、腕章、懐中電灯、ハンドメガホンの支給を行う。

54

7. 那覇市の取り組み②

(2)自治会等へ保安灯の設置補助

自治会ほかPTAや通い会等の団体へ1灯5万円、1団体3灯を上限に補助

・自治会等への保安灯設置補助実績

	H24年	H25年	H26年	H30年	R3年
予算	222万円	753万円	1,096万円	1,444万円	1,396万円
団体数	35団体	42団体	56団体	124団体	105団体
灯数	74灯	165灯	225灯	293灯	268灯

55

私、池原は普段、那覇市役所に勤めております。そこで、団体をバックアップする部分を紹介いたします。

那覇市でも条例を作成しまして、自治会や通り会等の防犯パトロールに対して、腕章や懐中電灯、ハンドメガホン等を支給する事業を行っております。

また、平成25年を境に、保安灯設置補助の予算を大幅にアップしました。平成25年当初は、年間165灯でしたが、今では250灯と毎年増えています。自治会やPTAなど防犯活動をしている団体が保安灯を付けるとき、1灯あたり5万円を補助しています。また、LEDに変更すると電気料の負担が減ります。そのため、LEDへの切り替えにも補助をしております。

7. 那覇市の取り組み③

(2)自治会等へ保安灯電気料金補助

自治会ほかPTAや通い会等の団体へ1灯あたり、LED1,680円、LED以外2,400円を上限に補助(年額)

・自治会等への保安灯電気料補助実績

	H25年	H27年	H29年	R1年	R3年
予算	1,146万円	1,087万円	1,240万円	1,324万円	1,304万円
団体数	153団体	179団体	202団体	233団体	245団体
灯数	4,792灯	4,682灯	5,503灯	6,233灯	6,357灯

56

7. 那覇市の取り組み④

<防犯カメラ関係>

・「那覇市防犯カメラ設置等基準条例」制定(令和2年)

・自動販売機の収益を活用した防犯カメラの設置→7機

・自治会等へ防犯カメラの設置補助

→R3年実績:11機、令和4年実績:7機

57

また、平成25年からは、ランニングコストである電気料にも補助を開始しております。LEDは1680円。ほぼ年間、これでまかなえます。

これが、なぜ平成25年からののかと言いますと、新庁舎が平成25年にできまして、その駐車場を有料化し、予算には、この財源を当てております。このように、安定財源があるものですから、この10年、那覇市の保安灯は平成25年の4700余りから、現在、6300余りへと純増しております。

また、防犯カメラの設置条例について、私も担当し、制定しました。自販機を活用した無料の防犯カメラを7機設置。また、自治会等への防犯カメラの設置補助も開始し、令和3年は11機、令和4年は7機、今年も10機ほどの実績を予定しております。

また、私は今、教育委員会に配属されております。教育長より委嘱された青少年指導員を、中学、高校へ各5名程度、配置しております。

また第1金曜日には夜間街頭指導を業務として実施しているほか、青少協主催の第3金曜日の夜間街頭指導にも、地域に職員を派遣して、各種情報交換会をしております。

こうした合間を縫って、我々も防犯パトロールを、年に3回から5回、開催させていただいております。

信念は、「地域の子どもは地域で育て、守る」。そして、「みんなで力を合わせて、住みよいまちづくり」。これをモットーに、那覇市や各種警察署、地域団体と協働して、安心・安全なまちづくりに務めてまいります。ご清聴ありがとうございました。

7. 那覇市の取り組み⑤

【那覇市教育委員会の関連】

- ・教育長より「那覇市青少年指導員」を委嘱し各中学校区に配置(75名)
- ・第1金曜日に夜間街頭指導を実施
- ・青少協主催の第3金曜日夜間街頭巡回へ専任指導員を派遣(6名)

58

最後に

**“地域の子どもは地域で守る”
“みんなで力を合わせて住みよいまちづくり”
をモットーに那覇市と協働で安心安全なまちづくりに努めてまいります。**

59

講 評

福岡大学 人文学部 文化学科 教授 大上 渉

非常に多くの住民の方々が参加される活動で、地域の安全・安心だけでなく、地域の防犯意識の向上にも寄与する、貴重な、有意義な取組だと思いました。警察、防犯協会、行政、自治会、学校、企業。さまざまな団体が参加し、地域全体で総合的に取り組まれています。そのため、地域コミュニティの形成、活性化につながる活動だと思います。

また、さまざまな工夫があります。参加団体やメンバーを増やす取組として、企業名、団体名が印刷されたのぼり旗を掲げてもらうこと。防犯パトロールには青年会、美化清掃活動には児童・生徒にも参加してもらうこと。また、ボランティア参加証明書を発行すること。さまざまなアイデアが見受けられて、他のボランティア団体にも大いに参考になると思いました。

最後に、新規イベントのトンネルアート。これは児童・生徒に、防犯に関心を持ってもらいやすいという点でも意義がありますが、そもそもおっしやるように、トンネルは犯罪が起りやすい場所です。犯罪は見えにくく、入りやすい場所で起きます。トンネルアートは、犯罪を企図する者に対して、地域住民がそこにきちんと関心を向けていることを訴えるメッセージになります。そして、この取組に参加する児童・生徒の皆さんに、トンネルは犯罪が起きやすい場所なのだと理解してもらえる、非常に良い取組だと思いました。簡単ですが、以上です。